

地域と家庭 オピニオンズ

福島学院大

⑦

学生の声に対する感想や意見をお寄せください。
下さい。丁960-8602
交流部アカスは024(531)4117、福島民報社地域
メールはchiki@fukushima-mi
co.jp(氏名、電話番号を明記してく
ださい)

藤原先生 精神保健福祉法第3条には国民の義務として「国民は、精神的健康の保持及び増進に努める…」と定められている。メンタルヘルス分野のソーシャルワーカーを目指す皆さんにとって大切なことは何か。

菅野 生きていく上で心の安全基地を持っていること、必ずしも親でなくともその役割を果たす人がいることが大切だ。利用者が安心して自分を表現できる場を提供し、関わっていきたい。

阿部 例えば乳児院や児童養護施設、精神科病院で育った福祉作業所利用者が、帰る家がなく周りの人につらく当たるような場合、寄り添って温かく見守るスタッフがいることは大切だ。

遠藤 児童養護施設のボランティアで初めて会った子につらく当たられ、悲しくなった。でも、大人を困らせる試し行動で「この人なら」と怒りをぶつけてきたのではないかと思い直した。その後は普通に近寄って来てくれたので楽に居られるようになった。

菊地 安心感と居場所の提供が心を開き、その人の良さを引き出せる。

遠藤 信頼関係があってこそ利用者

は自立できるはずだと思う。

羽田 利用者はそのままの自分を受け入れてもらっていると思えると、自立してやってみようとする。だから利用者に安心してもらえる人になりたい。

菅野 私に見せる姿がその人の全てではない。その人らしい魅力を見つめ、気づいていない良さを見いだしたい。

藤原先生 信頼と安心が大切だね。

心の健康

温かく見守る姿勢で



写真右から阿部美咲さん、羽田英里さん、菅野冴さん、菊地みづきさん、後藤香那さん、遠藤悠華さん、藤原正子教授・精神保健福祉士（学生はいずれも3年）

福祉学部福祉心理学科

ず周りに相談した方がいい。「君のせいではないよ。つらかったね」と受け止めてもらえば安心感が生まれる。

羽田 支援者自身が自分を大事にできないと利用者や周りに影響が出る。

藤原先生 ソーシャルワーカーは相談相手に願いを語ってもらえるように、信頼関係を前提に、その人らしい生活に向けて本人の意思を確認しながら周囲に働き掛け支援する。また、家庭での親の役割については、言っていることとやっていることを一致させ、子どもがやってよいこと悪いことの判断ができるようになることが大切だ。

阿部 家庭不和が子どもにとって一番のストレスになる。崩壊しそうでない家庭にこそ支援が必要だと思う。

藤原先生 親が自分自身を大切にすることによって家族が自分を大切にできるようになる。米国の地域精神保健活動に尽力したキャプラン医師は、心にぐらりとくるような出来事があるても、人は心のバランスを取り戻す力を持って生まれてきていると言っている。きょう出たポイントを今後の心の健康のために生かしてほしい。

二次回は11月第4週に掲載予定